

平成 28 年度兵庫県（高砂市）地域社会剣道指導者研修会

期間：平成 28 年 8 月 17 日（水）～19 日（金）

会場：高砂市総合体育館

参加者：13 名 ※中学校保健体育科教職員。うち段位・級位を持たない剣道初心者 7 名。

派遣講師：山根大二郎 教士八段 全日本剣道連盟

山田 博子 錬士六段 全日本剣道連盟



兵庫県で中学校必修化特化の研修会が開催されるのは 4 年連続、高砂市では初めての開催となった。これまで、姫路市の県立武道館で行われていたが、県内各地の学校から参加できるよう、今回は高砂市での開催となった。県内中学校の体育授業での剣道実施率は約 2 割という状況だが、体育教員を対象とした剣道研修会は今後も続けていく予定であり、次年度以降についても、別の地区での開催を検討している。また、過去の参加者から 2 日間の研修では短いという意見が多くあったため、今回は 3 日間の研修会となった。

初日は、山田講師が「中学校保健体育における武道必修化の現状」について講義を行った。剣道の特性をどのように指導するか、技術だけでなく伝統と文化を正しく伝えていくことが重要、指導者が剣道をきちんと学び、剣道の魅力を伝えてほしいと力を込めた。

続いて、山根講師が「体罰・暴力によらない剣道指導」について資料を基に説明した。「体罰は違法行為であり、やってはならないという意識を持つ、特に学校全体で徹底しなければならない」。

さらに安全管理について、「竹刀の点検を必ずすること。外から見るだけでなく、竹刀の内面も確認するように」と注意を促した。

講義の後に実技講習が行われた。授業の導入方法として、「剣道じゃんけん」、「新聞紙切り」、「竹刀を使ってゴムボールのキャッチボール」などが紹介された。山田講師からは、「導入の段階から、声を出すことが大事だと強調します。指導者が大きな声を出すことで、生徒も恥ずかしがらず声を出すようになります。剣道は声を出すという意識を持たせるのは非常に大切」と導入段階でのアドバイスがあった。

午後は山根講師による礼法の指導。立礼、座礼、座り方、立ち方、竹刀の扱い方など、参加者は慣れない動きに戸惑いながらも真剣に取り組んでいた。続いて基本打ち、木刀による基本稽古を学んだ。山根講師が初心者にもわかりやすい言葉と動きで見本を示すと、剣道経験のほとんどない参加者もみるみる上達していった。

2日目はいよいよ剣道具を着装。はじめは二人一組となり、相手の剣道具を着けてあげるのも時間の短縮につながる。手拭いを付けるのは中学生には難しく時間もかかる。手拭いで兜をつくってかぶる方法が紹介された。防具をきちんと付けなければ大きなケガにつながるので、互いに十分チェックすることが重要。

防具をつけて互いに基本打ち。正しい打突部位が打っているか、刃筋は正しいか、4、5人のグループに分かれて、評価をする。悪い点ばかりあげるよりも、こうすればもっと良くなるという前向きなアドバイスをすると、生徒の意欲も高まる。

その場から打つ→一足一刀から打つ→踏み込んで打つ、と段階的に指導していき、いよいよ「かかり練習」。

「生徒はやはり、打ち合うことが大好き。7～8時間の授業でも互いに打ち合うまでの指導は十分にできます」（山田講師）

最終日は、2グループに分かれて、有段者は日本剣道形、初心者は木刀による基本技を行い、3日間の研修を締めくくった。

▽参加者の声

「母親がなぎなたをやっていて、防具を借りてきました。ずっとサッカーをやっていて、剣道は大学の授業で少しやっただけです。始めは難しかったが、わかりやすく指導していただき、楽しく剣道を学ぶことができました」（男性）

「専門は野球で、剣道経験はほとんどありません。剣道は用具一式がないとできないと思っていましたが、木刀があれば基本的な指導ができると聞いて驚きました。自分の学校でもぜひ剣道を授業で教えてみたいと思いました」（女性）

